

佐藤優著「読書の技法—誰でも本物の知識が身につく熟読術・速読術『超』入門—」東洋経済新報社、2012年8月9日刊を読む

半年で世界史の知識が飛躍的に身についた実例

1. (1) 真理は具体的である。ここで、世界史に関して半年でまったく白紙の状態から、大手予備校の全国模擬試験で偏差値 70 以上の成績をとった実例を紹介しよう。
(2) 予備校の講師(英語担当)をつとめながら『月刊日本』(K&K プレス)の副編集長をつとめている尾崎秀英氏と、ある青年の受験勉強の面倒を見たことがある。
(3) 尾崎氏は 1974 年生まれ(筆者より 14 歳年下)で、東京大学文学部の倫理学専修過程を卒業し、卒業論文は日本思想だが、西洋哲学史に通暁している。特に存在論に対する関心が高く、現在も哲学に関心を持つ大学生や若い人たちを集め、ハイデッガーの『存在と時間』をドイツ語で読む勉強会を主催している。
(4) 2010 年 6 月末から、筆者たち二人で、大学に進学して本格的に神学や哲学の勉強をしたいという強い意志を持っている 20 代半ばのフリーター青年の受験勉強を手伝った。尾崎氏が英語と国語(現代文と古文)、筆者が世界史 B を受け持って同志社大学への受験準備を始めた。
(5) 最初に世界史の基礎知識についてチェックしたが、高校時代の勉強をこの青年はまったく覚えていない。そこで 7 月初めから、まったく白紙の状態を前提に指導を始めた。大手予備校の全国大学模試では偏差値 40 程度の学力しかない。
2. 短期間で試験に合格するようにするためには、「漆塗り」のように、反復を重視する勉強が効果的だ。半年でどんな私立大学の世界史の試験でも合格点をとれる学力をつけることを目標にし、以下の 3 つの指導方針を決めた。
 - (1) 世界史の勉強は1日4時間以内にする。だらだら長時間勉強をしても学力はつかない。
 - (2) 教師陣の指導を信頼し、与えられた以外の課題に手を出さない。
 - (3) 毎日の勉強量をメールで簡潔に報告する。このとき見栄を張って、過大な報告をしない。実態を正確に把握しないと適切な指導ができないからである。
3. そこで具体的に、第一段階では、以下の課題を与えた。
 - (1) 大学入試の標準とされるのは先ほど取り上げた①佐藤次高他『詳説 世界史 改訂版』(山川出版社)だ。しかし、この教科書を読んだだけで、内容を記憶することはできない。そこで、通史については、わかりやすい②青木裕司『NEW青木世界史B 講義の実況中継』(全5巻、語学春秋社)を通読することにした。ただし、第5巻は文化史なので、後回しでよい。
 - (2) この作業と並行して、③石井栄二編『詳説 世界史書きこみ教科書 世界史 改訂版』(山川出版社)を処理した。これは、「詳説 世界史 改訂版」本文の重要事項を空欄にし、解答が欄外に書かれている教科書だ。この欄外の解答を本文に書き入れていく作業を行う。単純な「力仕事」だが、

これで知識が身体を通して身につく。

(3) 青年はこの作業を約 6 週間で終えた。そこで、第二段階として次の課題を指示した。

④鈴木敏彦『ナビゲーター世界史 B』(全 4 巻 山川出版社)を読み、その後、前出の『実況中継』第 5 巻(文化史)を読んだ。

(4) それと並行して、⑤佐々木巧／塚原直人編『30日完成スピードマスター世界史問題集世界史 B』(山川出版社)と⑥神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会編『世界史 A 問題集』(山川出版社)を消化した。この 2 つの問題集は、世界史の骨組みとなる基礎知識を定着させるのに最適だ。この青年は、第二段階の課題を 9 月初めまでに処理した。

4. (1) ここで 9 月初旬に行われた大手予備校の全国統一模擬試験をこの青年に受けてもらった。100 点満点で 64 点(平均点 31.7 点)、偏差値は 65.3、学力レベルは S(偏差値 65.0 以上で最高ランク)だった。さらに 11 月の模擬試験では、偏差値が 70 を超えた。その後、第三段階として、2011 年 1 月まで以下のカリキュラムをこの青年に消化してもらった。

(2) 『実況中継』『ナビゲーター世界史 B』の再読。そして、⑦塩田徹／永井英樹編『各国別世界史ノート 重要事項記入式』(山川出版社)に取り組んだ。この教材は、教科書を読むだけでは理解しにくい各国史、地域史を把握するのに最適だ。ビジネスパーソンが国際政治を理解する基本書として用いることもできる。並行して⑧世界史教育研究会編『世界史 B 世界史問題集 新課程用』(山川出版社)、⑨植村光雄他『関関同立大世界史改訂第 4 版』(河合出版)を解いてもらった。

(3) さらに、⑩木下康彦／木村靖二／吉田寅編『詳説 世界史研究 改訂版』(山川出版社)の精読を指示した。本書は、高校教科書『詳説 世界史 改訂版』の構成に即し、内容を深く掘り下げ、大学院レベルの内容も含んでいる。

5. (1) 適切な手順を踏んで勉強を行えば、2～6 カ月でこの程度の学力向上が可能だ。尾崎氏が指導している英語の学力も飛躍的に伸び、国語の成績も向上した。2011 年 2 月の同志社大学の入試では、神学部、法学部、政策学部、社会学部を受験し、全学部で優秀な成績で合格した。

(2) いまから世界史の勉強をやり直したいと考えている読者も、ここで提示したプランから若干間引きをして勉強すれば、半年程度で世界史に関する知識が飛躍的に身につく。

P136～140

[コメント]

佐藤優氏らによって、6 月末日からの半年間で高校 3 年の大学受験生の世界史の偏差値を 40 から 70 と 30 アップさせた学習方法が具体的に示されている本著は、「超」参考になる。

1 日 4 時間、①～⑩を教材として①～⑩を順序よく「学習」して世界史を「理解」し、「定着」させ、「応用」力を身に付け、6 か月で偏差値を白紙の状態から 70 までにする。全科目でこのような手順での学習を提示して遂行させ、結果が出せてはじめて「プロの講師」といえる。

— 2014 年 1 月 5 日 林 明夫 記 —